

# 平成30年度 事業報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(はじめに)

大阪対がん協会は平成25年8月1日付で旧財団法人から公益財団法人に移行した。今回は公益財団法人に移行して6期目、期間は平成30年4月1日から平成31年3月31日までの報告となる。

## 《 公益目的事業 》

(公1)普及・啓発活動： 啓発イベント開催・情報発信・がん検診の奨励など

### 【 がんに関する啓発イベント 】

▽主催行事

#### ① 大阪対がん協会セミナー

単独で運営する啓発イベント「大阪対がん協会セミナー」を開催している。今年度は2回開催する予定であったが、9月30日に予定していたセミナーは台風のため中止となり、1月20日に大阪市北区の朝日新聞アサコムホールで開催した第5回セミナーのみの開催となった。この日の第1部は基調講演と4人のがん患者体験談、第2部のシンポジウムでは第1部で登壇した患者、がん相談支援担当、看護師で意見交換を行い、参加者にそれぞれの立場から考える機会を提供した。テーマと講演者は次の通り。

開催日	テーマ	講演(敬称略)
第5回 1月20日	がんを生き抜く ～患者と家族からのメッセージ～	池山晴人(大阪国際がんセンター がん相談支援センター 副センター長) 井上法子(大阪市立総合医療センター がん相談支援センター 看護師) 伊藤隼人、飛地和江、真田松枝、矢田博嗣

#### ② 成人病公開講座

大阪国際がんセンター、大阪成人病予防協会とともに4回開催した。いずれも会場は大阪国際がんセンターで毎回ほぼ満席となり、合わせて約700人が参加した。各回とも大阪国際がんセンターの医師を中心とした講師が、図や表などを織り交ぜて、分かりやすく説明している。各回のテーマと講師は次の通り。

回数	開催日	テーマ	講師(敬称略)
80回	6月12日	AYA世代のがんのすべて	中田佳世、井上雅美、木下学、田中太晶

81回	9月11日	がんに対する血管内治療と放射線治療	前田登、小西浩司、溝江純悦
82回	11月14日	がん治療を阻む生活習慣病とは？	藤田雅史、大江洋史、山崎知行、熊谷融
83回	2月12日	婦人科がんの最新診療	上浦祥司、太田行信、筒井建紀

### ③ がん予防キャンペーン大阪2018

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムは、10月6日大阪府中央区ドーンセンターで開かれ、323人の参加があった。当協会は実行委員会を構成する主催11団体の一つとして15万円を負担した。構成団体はほかに大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、事務局は大阪府保健医療財団が担当している。今年度のテーマは「増え続ける大腸がん！大切な検診と適切な治療」で、4人の講師が、それぞれ「大腸がん検診はもつとも理想的ながん検診です」「大腸CTという検査」「大腸がん予防のために内視鏡ができること」「大腸がんの最新の治療」について講演を行い、総合討論も行われた。当キャンペーンは、大阪府のがん死亡率とがん検診の受診率を改善するために毎年行われている。

### ④ 遺贈セミナー

（主催 日本対がん協会、共催 大阪対がん協会）

遺贈セミナーは、3月9日大阪府北区中之島のアサコムホールで開かれた。弁護士の樽本哲氏らが豊富な事例を紹介し、遺言、相続、財産を社会に役立てる遺贈についての情報を提供した。併せて、両対がん協会へがん征圧活動のための資金を供与する遺贈支援の検討もお願いした。

### ▽「共催」「後援」行事

医療機関、患者団体などが主催するイベントに対して、共催や後援をして支援した。協会ホームページの「講演会・イベント情報」欄に掲載したほか、朝日新聞のお知らせ欄「タウン」への掲載などで広報PRに務めた。また、協会発行の小冊子「進め！がん防衛隊」を提供し参加者に配布したイベントもあり、イベント支援を通じて他団体と信頼関係を築くことに努めている。

#### 【がんに関する情報発信】

##### ① オリジナル小冊子などの配布

協会発行のがん啓発小冊子「進め！がん防衛隊第2版」は30年8月に完成した。3千部印刷し、多くの方のがんを知るきっかけとしてもらうために、主催行事などでの配布や希望者への送付を続けている。また、医療機関などから、大部数を希望された場合は1部100円で販売を行った。また、別のがん検診を勧める啓発チラシを2種類作成し配布している。

##### ② 協会ホームページ

インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、平成22年5月に協会ホームページを開設し9年目を迎えた。内容の充実を図るとともに、更新で最新の情報提供に努めた。協会が主

催・共催・後援するイベントの告知、がん研究助成奨励金事業の詳細を掲載するほか、決算書などの情報公開資料も開示している。

### ③ 事業概要・協会報

8月に「平成29年度事業概要」を発行した。29年度の事業内容や寄付者名簿のほか、がん研究助成奨励金受賞者も併せて掲載した。協会報は5月、12月に発行した。

#### 【日本対がん協会関連事業】

「日本対がん協会大阪府支部」としてがん征圧事業で連携、協力を進めた。

##### ① がん征圧月間

9月を「がん征圧月間」として日本対がん協会が展開する各種事業に参加・協力した。メイン行事として千葉市で開かれた「がん征圧全国大会」に会長と専務理事が参加した。また、共通デザインの「がん検診の推進」と「禁煙」の2種類のポスターを100枚製作し、大阪府医師会、大阪府看護協会など関係各団体へ送るなど、征圧月間の目的であるがんの予防知識や早期発見・早期治療の重要性を広く伝えるための啓発活動を行った。

##### ② 近畿ブロック会議

日本対がん協会と近畿2府4県の支部が、がん征圧事業の報告や意見交換をする近畿ブロック会議は10月9日、神戸市のホテルクラウンパレス神戸で開催された。事前に各支部から出された質問に日本対がん協会と他の支部が答える形式で、検診に関する動向や各支部運営の管理面について有益な情報を交換する話し合いが持たれた。

##### ③ 乳がん検診無料クーポン券の活用

日本対がん協会が発行しているマンモグラフィ検診無料クーポン券を活用し、がん検診の受診率向上に取り組んでいる。クーポン券は主催・共催行事である大阪対がん協会セミナー、がん予防キャンペーン大阪などに参加された方にプレゼントし、乳がん検診の推進に努めた。

#### 【患者支援活動】

患者会からの依頼があればイベントのPRなど告知面で協力した。

## (公2)がん研究助成：がんの研究、治療に当たる医師、看護師らへの助成

#### 【がん研究助成奨励金】

新進の研究者・医療従事者(基礎・臨床・疫学は40歳未満、看護等は45歳未満)を支援する「がん研究助成奨励金」事業は協会の目玉事業である。同事業は協会設立翌年の昭和35年度から始め、今回で59回目を数えた。30年度は「基礎」「臨床」「疫学」「看護等」の4部門で計15人の受賞者を選び、各30万円を贈呈した。今年度は計78人から研究成果の応募があり、外部の専門家など13人の選考委員が採点した結果をもとに2月15日に開かれた選考委員会(委員長＝松浦成昭・協会長)で受賞者を選んだ。受賞者は今回で延べ1719人、奨励金の総額は4億780万円となった。

贈呈式は3月19日、大阪市北区の中之島フェスティバルタワー12階で開かれ、松浦会長が受

賞者に賞状と奨励金30万円を手渡した。受賞者を代表し、基礎の部で受賞した小関準さんが受賞のあいさつをした。

## 《 会員向け事業》

主に賛助会員向けの特典として協会が進めてきた事業について、公益財団法人に移行後は「その他の事業(相互扶助等事業)」として、公益目的事業と区分している。30年度も以下のような会員向け事業を継続実施した。

### (他1) 賛助会員サービス： 定期的な情報の提供・ がん検診の奨励

#### 【情報の提供】

##### ① 協会報

協会報は5月、12月の2回発行した。各1100部印刷し、内容は以下の通り。

発行月	主 な 内 容
5月号	平成29年度がん研究助成奨励金贈呈式・受賞者紹介、がんのゲノム医療、会員の皆様へのお願い、イベント報告(成人病公開講座、大阪対がん協会セミナー)
12月号	平成30年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋のイベント報告(成人病公開講座、がん予防キャンペーン大阪)、大阪のがん死亡減少をめざして、来春のがん検診案内

##### ② 事業概要

「平成29年度事業概要」を8月に発行した。1100部印刷し、会員のほか、関係機関、希望者に郵送した。A4判で40ページ。従来通り事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、がん研究助成奨励金の平成29年度受賞者15人の研究内容を8ページにわたって紹介している。普及啓発活動の紹介の項目では、協会の主催・共催・後援イベントの一覧表を掲載した。

#### 【がん検診の案内】

##### ① 春・秋のがん検診

会員向けがん検診は春と秋に行っており、春(4、5月)は大阪がん循環器病予防センター、秋(10、11月)は大阪府医師会保健医療センターで、胃、大腸、肺、乳腺、子宮の5部位について実施された。春の検診は協会報12月号、秋の検診は8月に案内し、受診を勧奨した。30年度は延べ86人が受診した。

がん検診の奨励に対する協会の負担は、春は検診受診票の送付切手代や印刷費の事務経費、秋は検診施設である医師会保健医療センターへの2万3千円の助成金である。

## 《 協会の運営》

### 【 決算および寄付の状況】

#### ① 30年度末の正味財産について

30年度末の正味財産額は2716万円で、前年と比較して762万円増加した。収支は、経常収益が2202万円、経常費用が1440万円。収入面では遺贈が2件(1399万円)あり、支出面では事業費・管理費削減(前年比30万円減少)の効果もあり、大きく収支は改善した。過去3年間の正味財産の増減は、27年度(9万円増加)、28年度(91万円減少)、29年度(72万円減少)という結果である。

#### ② 受取寄付金とその内訳について

平成30年度の受取寄付金(会費を含む)は2188万円で、前年度に比べて798万円増加した。過去3年間の受取寄付金は27年度1890万円、28年度1484万円、29年度1390万円である。

寄付金の内訳は、賛助会員からの会費収入が373万円、会員数は547件、前年度に比べそれぞれ41万円、44件の減少となった。会員のうち、維持会員は454件、特別会員(会費1万円以上の個人または法人)は88件。新入会員は5件。高齢などの理由で維持会員の退会が多く、会員数の減少が続いている。一方、会費以外の寄付金は1815万円、95件で前年度に比べ金額で839万円増加、件数では10件減少した。

#### ③ 特定寄付について

MSDからの寄付が金額の変更はなかったが、特定寄付(がん研究助成奨励金事業に対する寄付)から一般寄付へ変更されたため、今年度は3万円にとどまった。

#### ④ 募金型自動販売機

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組むことで、協会の収入増と知名度アップをめざしており、合計11台である。募金型自販機を通じた収入は年間約200万円になり、安定した財源になっている。

以上